

パレードで民報金ばれんを披露



↑民報金ばれん受賞記念パレードの様子

広野町消防団は、10月5日（日）、町内で県下一の消防団をたたえる民報金ばれんの受賞記念パレードを行いました。6月に実施する予定だったものが、雨天で順延されたものです。

午前9時に花火を打ち上げ、合図とともに駅前商店街から広野小学校までの約1.5キロメートルを、民報金ばれんを消防車両の上に載せ、矢内消防団長と町長が沿道の町民にあいさつしました。消防車両は全部で8台参加し、本団、婦人消防隊、ラッパ隊、各分団合わせて約80人が隊列行進をしました。

引き続き消防団は、広野小学校校庭で秋季検閲を行い、万全の備えを確認しました。

ふれあいキャンペーンで安全運転を呼びかけ



↑ふれあいキャンペーンの様子

秋の全国交通安全運動は、9月21日から30日までの10日間行われましたが、期間中の22日（月）、町内大字下北迫地内で帰宅時間帯のドライバーに交通安全を呼びかける「ふれあいキャンペーン」が開催されました。キャンペーンには、富岡地区交通安全協会広野分会の会員、双葉警察署長ほかの職員、町職員など約30人が参加し、手作りの交通安全マスコット100個と啓発ちらしなどを配りました。このマスコットは、双葉警察署の職員が折った折り鶴に、広野小学校の児童や広野中学校の生徒がメッセージを書いた短冊をつるしたものです。期間中は、国道6号線沿いで朝の街頭啓発も行われました。

広野駅東側第1期開発整備事業を起工



↑広野駅東側第1期開発整備事業起工式の様子

10月20日（月）、町内大字下浅見川字広長の双葉農業普及所地内で、広野駅東側第1期開発整備事業起工式を行いました。町長は、地権者、国会議員など多数の出席者を前に「この事業が双葉地方の復興の礎になることを願います」と主催者あいさつをしました。

この事業は、広野町復興計画で復興ゾーンに位置付けている広野駅東側地区に新たに産業団地を整備し、各種事業所や研究機関などの誘致を進めるとともに、双葉地域の復興の拠点としての役割を果たすことと、地区内の新設道路を整備することで有事の際の重要な避難路を確保することを目的としています。

敬老会で金婚や長寿をお祝い



↑敬老会の様子

町は、9月21日（日）に広野小学校体育館で平成26年度広野町敬老会を開催し、高齢者の皆さんをお祝いするとともに、結婚50周年（金婚）を迎えた町民15組の夫婦を表彰しました。

また、広野町社会福祉協議会などから、町内最高齢者（100歳）や満85歳以上の町民22人に記念品が贈られました。

町と町議会が合同要望活動



↑町・町議会合同要望活動の様子

遠藤町長と12人の広野町議会議員は、9月24日（水）と25日（木）の2日間にわたって、東京都で広野町・広野町議会合同要望活動を実施し、しおさまやすひさ塩崎恭久厚生労働大臣らに要望書を手渡しました。

要望先は、復興関係省庁である復興庁、経済産業省、環境省、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、農林水産省に加えて、政府与党である自由民主党と公明党のほか、東京電力株式会社です。

全量・全袋検査で食の安全を確保



↑全量・全袋検査の様子

9月19日（金）からJAふたば稲葉低温倉庫で、平成26年広野町産米の全量・全袋検査を開始しました。

町は、福島第一原発事故以来、出荷制限や風評被害などの深刻な被害を受けています。そこで、農産物の安全を確保し、消費者や流通業者の信頼を得るため、広野の恵み安全対策協議会が主体となってこのような放射性物質の検査を実施し、その検査結果を提供しています。

全量・全袋検査についての詳しい情報は、「ふくしまの恵み安全対策協議会」ホームページ（<https://fukumegu.org/ok/contents/>）をご覧ください。

安心・安全ネットワーク会議設立



↑安心・安全ネットワーク設立総会の様子

10月1日（水）、広野町役場で「広野町安心・安全ネットワーク会議」の設立総会が開催されました。

同会議は、誰もが安心して暮らせる犯罪のないまちづくりを実現するため、地元企業、復興業務のために町内に事業所を設置する企業、警察、警戒パトロール隊および町が情報の共有や意見交換を行うことを目的に設立されたものです。

はまぎく会が交通安全教室を開催



↑はまぎく会交通安全教室の様子

はまぎく会は、9月12日（金）に下浅見川集会所で交通安全教室を開催しました。この教室では、福島県警察本部交通企画課の職員が、県内の交通事故の状況や、日ごろ気を付ける交通ルールなど、イラストやビデオなどで分かりやすく説明しました。

また、参加者は、専用の装置を使って道路横断のシミュレーションにも挑戦し、交通安全の大切さを認識しました。